

《履修上の留意事項》演習時には動きやすい服装で臨むこと。

この講義の6～9回目については、全体を4つのグループに分けローテーション方式で実際に介護予防事業等に出向いて心身機能の評価や運動指導の演習を行う。

《担当者名》○鈴木英樹 長谷川純子

【概要】

地域理学療法学で学んだ知識をもとに、様々な地域理学療法の現状や課題について総合的な理解を深める。また、介護予防事業の対象となる地域在住高齢者に対する包括的評価や具体的な運動・動作指導を通じて理学療法士の活動意義とその役割、将来展開について学修する。また、介護保険での理学療法遂行の元となるケアプランの構成や具体的内容について理解を深める。

【学修目標】

地域理学療法における理学療法士の具体的取り組み内容を理解するために、評価方法及び具体的な運動指導等の方法について説明できる。

1. 介護予防チェックリストの内容を理解し、意義や実施の目的を説明できる。
2. 介護予防のための包括的評価の内容を理解し、高齢者の人々に対し説明し実践できる。
3. 評価結果に基づき介護予防のための運動プログラムを高齢者の方々に説明し実践できる。
4. ケアプランの意義、記載内容を理解し説明できる。
5. フレイルやサルコペニアの違いを理解し説明できる。
6. 地域在住高齢者の日々の生活における興味関心について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション及び地域理学療法における評価演習	・オリエンテーション ・地域理学療法に関連する評価の紹介と試行 ～介護予防チェックリスト、興味関心シート	鈴木英樹
2	地域理学療法における評価演習	・地域理学療法に関連する評価の紹介と試行 ～パーセルインデックス、HDS-R	鈴木英樹
3) 4	地域理学療法における評価演習	・介護予防のための心身機能評価 ・フレイル、ロコモティブ症候群、サルコペニアに関連する評価	長谷川純子
5	フィールドワークオリエンテーション	・フィールドワークに向けたオリエンテーション及び各グループごとの準備	鈴木英樹 長谷川純子
6) 10	地域理学療法における実践演習	・実際に地域の介護予防事業に参加し、事業参加者に対し心身機能の評価を実施	鈴木英樹 長谷川純子
11	集団に対する地域理学療法支援とオリエンテーション	・集団に対する具体的理学療法的支援についての理解 ・実践演習 に向けたオリエンテーション	鈴木英樹 長谷川純子
12) 14	地域理学療法における実践演習	・地域課題及び集団を対象とした地域理学療法実践を体験する	鈴木英樹 長谷川純子
15	まとめ	15回の演習を振り返り、理学療法士と地域理学療法の関連性について理解を再確認	鈴木英樹

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 70%

講義中の課題レポート及びグループワーク報告 30%

定期試験及び追再試験終了後、問合せがあった場合には模範解答を例示する。

【教科書】

【参考書】

島田裕之 編 「サルコペニアと運動～エビデンスと実践」 医歯薬出版 2014年
宮越浩一 編 「高齢者リハビリテーション実践マニュアル」 メディカルビュー 2014年
武藤芳照 編 「転倒予防医学百科」 日本医事新報社 2008年
武藤芳照総 監修 「ここまでできる高齢者の転倒予防」 日本看護協会出版会 2010年

【備考】

フィールドワークでは実際に地域に出向き、高齢者の方のご協力により運動機能の評価を実施する。失礼の無いよう、そして安全に評価するとともに、測定結果に妥当性が得られるよう準備すること。

【学修の準備】

実技演習の際には積極的且つ真摯な態度で臨むよう心掛けること。
初回時に保健医療福祉論部分の確認を行う。
6～10回目は実際に地域に出向いて実施する。
12～14回目は動きやすい服装で臨むこと。
予習は、次回の授業範囲の教科書を読んで理解しておくこと（80分）。
復習は、教科書や配布プリントなどを活用し、学修を深めておくこと（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木英樹（理学療法士、専門理学療法士；生活環境支援、介護支援専門員）
長谷川純子（理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級）

【実務経験を活かした教育内容】

地域理学療法の実践経験を活かし、生活期における地域住民や地域に対する支援のための視点や具体的な実践方法について講義する。